

会議の概要

令和２年度 第５回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会

日 時：令和２年１０月２９日（木）１６：３５～１８：０５

場 所：大山小学校 体育館

（進行：大山小教頭 高橋 秀幸）

１ 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 矢吹 吉信）

みなさんこんにちは。只今より、令和２年度大山小学校・幼稚園学校運営協議会並びに第５回コミュニティ・スクール委員会（以下ＣＳ委員会）を開催いたします。よろしくお願いいたします。

２ 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- みなさんこんにちは。本日は、大山幼稚園・大山小学校のオープンスクールに引き続いてのＣＳ委員会にご出席いただきありがとうございます。今日は、大山幼稚園・大山小学校に特化した学校運営協議会になります。
- 先ほど、分科会で先生方に話し合いをしていただいたが、幼稚園の先生方から積極的に意見が出されていた。また、中学校の先生方からも様々な意見を出していただいた。印象に残っているのは、幼稚園の先生方から、「子どもの育ち」や「育ちの連続性」などについての発言がたくさんあったことである。とても嬉しく思っている。中学校の先生方からは、「視点を明確にした授業をすることによって、中学校に進学した時の育ちがさらによくなるのではないか。」との話があった。オープンスクールの目的（＝幼・小・中の縦軸＜学びの連続性、生活の連続性＞の大切さを実感したり、課題を発見したりすること）を十二分に達成することができたのではないかと考える。
- 分科会では県北教育事務所の先生方にご指導いただいたことが３つあった。

一つ目は、縦軸を大切にすることは大事だということ。子どもたちの育ちや学びを温かく見守ることが、児童個々の安心感につながっており、話し合いの中で発言やつぶやきが生まれる授業を実践できていた。

二つ目は、先生方が授業を上手にコーディネートしながら進めていたこと。座席表をうまく使いながら、話をつないでいったのがよかった。

三つ目は、特別支援学級の授業での児童の発達段階に応じた指導である。学級には２年生、５年生、６年生と育ちのかなり違う児童が在籍していた。複式の授業をしていたわけだが、支援員との連携をうまく図りながら、直接的指導と間接的指導を



工夫して、効果的に授業を実践していた。

- 今日は、大山幼稚園・大山小学校に特化した形の話し合いをしていただく。学校でつくったテーマは3つあって、幼・小の経営ビジョンに直結したものになっている。様々なデータも示されているので、積極的な話し合いをお願いしたい。
- 別に資料を用意させていただいた。全国コミュニティ・スクール連絡協議会会報 No.13 である。第10回大玉村教育フォーラムに講師としておいでいただいた、会長の貝ノ瀬三鷹市教育長に先日電話をいただいたが、もっともっと我々協議会の中身をいろんな所に発信していく必要があるという話になった。貝ノ瀬会長が提案していること、文科省が示すこれからの教育の流れやCSの在り方などについて分かりやすく記述されているので、ぜひご活用いただきたい。
本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

(コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥)

みなさんこんにちは。本日は、午後からお忙しい中、オープンスクール、分科会、そして大山幼稚園・大山小学校学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。

私は、今回は社会科の授業を参観させていただいた。本当に楽しい授業で、先生が子どもたちを引き込むような工夫をされており、私も引き込まれてわくわくしながら参観させていただいた。随所にグループ協議もあって、いろんな意見を出し合っている様子で活気に溢れた授業だった。

今日は、限られた時間ではあるが、内容の濃いお話をいただきながら温かな話を中心をお願いしたい。よろしくお願いいたします。



4 大山小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した大山幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 検討方法・課題の概要

(1) オリエンテーション

(大山小教頭 高橋 秀幸)

協議の進め方についての説明(付箋に書き込み、それを使いながら熟議を進める)

- ① テーマについて、学校・園、保護者、地域が協力して大山の子どもたちを育むという視点をもとに、「(学校・園、保護者、地域 それぞれが) できること・行いたいこと」を赤の付箋に、「(学校・園、保護者、地域 それぞれに) お願いしたいこと」を青の付箋に書き込む。
- ② 台紙に、記入内容に合わせて「グルーピング」しながら付箋を貼り付け、話し合いを行う。
- ③ グルーピングしたものに「見出し」をつける。
- ④ 各グループの話し合いの内容を、全体で共有する。

(2) 本校・園の教育活動について及び本日のテーマについて (大山小校長 館脇 一弘)

(パワーポイントを使って説明)

① 大山幼稚園の教育活動について

大玉村の学校、幼稚園の教育指導の重点を基に、大山幼稚園では『めざせ！夢に向かってがんばる子』の教育目標の実現に向けて、日々保育活動を行っている。教育目標実現に向けての重点目標を年齢毎に立てている。一年を通して目標が達成できるように援助を行っている。

＜新しい生活様式について＞

- ・ マスク着用での遊びに子どもたちはだいぶ慣れてきた。
- ・ 職員は毎日消毒を行っている。また、9月20日からは業者が入ってトイレの掃除を行っている。感謝している。
- ・ 食事については、部屋を分散し、同じ方向を向いて食べる等の工夫をしている。

ア 自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成

- 主体的に活動する力、考える力・表現する力を育成する。
興味や関心を持つことができるように、じっくり考えたり、試したりできる活動を充実させるとともに環境も整える。
- 子どもたちの遊びは、
 - 3歳児 … 自分のやりたいことや好きなことを見つけて、遊び出せることがねらい。
 - 4歳児 … 3歳児の刺激を受けて、まねをしながら遊びが広がっている。
 - 5歳児 … 昨年の経験から、さらに試したり、工夫したりしながら活動している。

イ 身近な人とかわろうとする子の育成(社会性を学んでいく場の設定、豊かな体験活動の充実)

- 社会性を学んでいく力を身に付けて、豊かな交流活動充実のために、異学年、地域の方々との交流を大事にしている。
 - ・ 今年も菊地果樹園にお世話になってサクランボ狩りという素晴らしい体験をさせていただいた。
 - ・ ずんね会の皆様にかぼちゃの種を植えていただき、できたかぼちゃを運動会で使わせていただいた。
 - ・ 小学2，3年生とビデオレターの交流を行っている。(新型コロナウイルス感染症対策)

ウ 心も体も健康な子の育成(たくましい心と体を育てる、健康で安全な生活をする力の育成)

- 運動量確保のために、散歩に出かけたり、小学校の校庭で遊具で遊んだり、年長組は園外保育に出かけたりもしている。
 - ・ 遊具の移設が完了して、現在その遊具が大人気で子どもたちは楽しく遊んでいる。大山幼稚園の子には体のきく子がたくさんおり、これでさらにパワーアップが期待できそうである。
 - ・ これまで人気のあった鉄棒についても活用させていきたい。
- 安全教育について
 - ・ 計画的に交通安全指導や避難訓練等を行い、移動中の危険回避能力を獲得できるようにしていきたい。

③ 大山小学校の教育活動について

教育目標は、幼稚園と同じで『めざせ！夢に向かってがんばる子』で、めざす児童像を『進んで学習する子』(学び続ける人)、『なかよく助け合う子』(共に生きようとする人)、『健やかでたくましい子』(心身を鍛える人)とした。

今年度は、めざす学校像の一番上に「子ども一人一人が主役の学校」を、めざす教職員像の一番上に「子ども一人一人に寄り添う教職員」を掲げた。

ア 『進んで学習する子』(学び続ける人)

- 「児童の思考をつなぎ、深める」という教師のコーディネート力を高めること、共に学び育つ学習態度を育てることに力を入れている。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、休校になった頃にはユーチューブを活用して自宅で学べるようにしたり、教員同士で模擬授業を行ったりした。また、分散登校の時期には、少人数指導を通して落ち着いた学びを実践できた。
- 本日は4つの授業を参観いただいたが、本校では、「共に学び育つ子ども」をめざした授業研究に取り組んでおり、全員が指導案を書いて授業研究を実施することになっている。

イ 『なかよく助け合う子』(共に生きようとする人)

- 人権の花運動、委員会活動等を通して、自他を大切にすることの育成を図っている。
- 学級経営交流会の開催について
 - ・ 他の学級では何を目標としたり、どんな活動をしたりしているのかを知ること、全校生に全職員が寄り添うことができるものとする。
 - ・ 経験が豊富で素晴らしい実践をしている先生の「子どもへの寄り添い方」を自分の学級経営に取り入れられるよう、みんなで共有していきたい。学級経営交流会の第1回目は、教育長さんから学級経営についての講話をいただき、年間の取り組みをスタートさせることができた。

ウ 『健やかでたくましい子』(心身を鍛える人)

- 全学級が業間マラソン、水泳学習、運動身体プログラム等に取り組み、体を鍛えている。
- 交通安全教室をテレビ放送で行っている。
- こんな時(コロナ禍)だからこそ、地域の方々にお世話になっている。
 - ・ 大山元気っ子農園、登下校の見守り、田植え、読み聞かせ、そば作り(村長さんの講話を含む)等。
 - ・ 十二神楽保存会の皆様に4年生がご指導いただいた。大変お世話になった。
 - ・ 直売所の見学の際、温かく迎えていただいた。
 - ・ 福祉学習では、社会福祉協議会にお世話になって、実際に車いすの体験をさせてもらった。
 - ・ 昔語り(大玉村の昔話)では、とてもいい話を聞かせていただいた。絵も用意して下さって話を聞かせていただいたので、子どもたちはとても喜んで参加していた。
 - ・ PTA奉仕作業には多くの方々に来ていただいた。密を避けながら作業していただき、校舎内外をきれいにしていただいた。
 - ・ 今年度は運動会と学習発表会を融合した“Vamos Ohyama Deportes”(10月18日<日>)を実施した。
 - 地域の縁プロジェクトの皆様から看板を寄贈いただき、それに6年生が自分たちが考えたデザインを描いた。
 - この他にも、校庭に屋外ステージを設営していただいた。第2回CS委員会の際、各校・園ごとに意見交流をした折に、私(校長)が「屋外ステージが必要」と夢を語ったところ、CSの皆様真剣に対応していただき、巨大なステージを設置するという夢を実現していただいた。

10月14日(水)、早朝から夕方までかかって、ステージ設営と音響設定をしていただいた。地域の方々は、専門的な知識を生かし、職人技を駆使して、ステージの平行を取るために高性能の機械を持参してくださったり、トラックやフォークリフトをご用意いただいたりするなど、子どもたちの笑顔のために時間も労力も惜しみなくご尽力いただ

いた。子どもたちもとても嬉しかったようで、後でフォークリフトをみんなで触ったりして楽しんでいた。

完成後、私が校庭の中央付近から「夢が叶ったんだ」と感慨に浸り眺めている時に、横でCS副会長さんが「これが大玉村です。」と話されたのがとても心に残っている。ここまでしてくださるのは世界中、日本中でも大玉村の地域の方々だけではないだろうかと思っている。「1年間ずっとこのまま置いておきたい」という気持ちになったくらいで、教職員だけでは到底できない専門的知識が満載で、ご協力いただけたことに心から感謝している。CSでなかったらここまでしていただけなかっただろうと思う。

大会当日、子どもたちは思いっきり輝く姿で活動していた。素晴らしい笑顔をたくさん見ることができた。本当にありがとうございました。

6 グループ別協議

(1) 協議の進め方について（協議の時間は30分間を確保）（大山小教頭 高橋 秀幸）

- ① 初めに、各グループで設定されているテーマについての背景を、要項をもとに大山幼・小職員が説明する。テーマは、一言で言う「大山幼・小ではこんなことを実践しているが、こんなことで困っている」ということである。それぞれのCS委員の立場で、工夫の具体例等アイディアを出していただきたい。

要項に書かれている「現状（今年度の取り組み）」「課題」等は、まず各グループで説明させていただく。密を避けるための少人数での分科会である。背景等の説明の際には、A、B、Cのテーマ毎にそれぞれ1と2に分かれているが、その時だけ集まっていただいて職員の話聞いていただきたい。

- ② ①を含めてこれから15分間程時間をとって、付箋にそれぞれの立場からご意見を書いていただき、情報を集める時間とする。

- ③ （声をかけるので）その後、20分間程度で付箋を貼りながら具体策についての協議をお願いしたい。

- ④ 協議終了後、全体で共有を図る。

(2) グループ別研究協議

※ 各グループごとに進行



7 グループ別協議内容の発表・共有

Aグループ：「学習」について

【テーマ】よりよい読書習慣を身に付けさせるために

< A1班 >

- メディアとの関係について（家庭にお願いすることが主）
 - ・ 幼稚園、小学校以前の乳幼児期からスマホに親しんでしまっている子が多い。脳に悪い影響を与えているということについて、赤ちゃんの頃から保護者に啓発していくことが大事である。
 - ・ 行政の連携（教育委員会、保健センター等）が必要である。それが実現して、小さいうちからメディアにふれる時間が少しずつ減ることによって、その分活字や読書に親しむ時間が増えるの

ではないか。

○ 読書のきっかけ作り

- ・ 読み聞かせや、(変に構えずに) 寝る前に話を聞かせることが大事であることを啓蒙する。
- ・ 教科書に載っているような本だけでなく、取り組みやすいような様々なジャンルの本に興味を持たせたい。例えば、幼稚園や小学校での図書館の貸し出し等で人気のある本について情報発信し、家庭でのおすすめの本を示すのもよい。



< A 2 班 >

○ 家庭・地域・ボランティア関係

- ・ 絵本や本がすぐ取れる環境をつくる。
→ 絵本を誕生日プレゼントにする。公共の図書館（ふるさとホール等）の活用の増加。

- ・ 家庭に眠っている読まなくなった本、不要な本を幼稚園や小学校に寄付していただく。学校・園が保護者や地域住民にその旨を伝え、募ってもいいのではないか。
- ・ 現在、幼稚園では絵本の貸し出しをしていないが、(発達段階として) 大切な時期であるので、消毒ボランティアや読み聞かせボランティアだけでなく、絵本を子どもたちに勧めるボランティアもいるといい。

○ 学校関係

- ・ 図書委員会の活動を工夫する。本の貸し出しを積極的に行う。借りる時間を確保する。
- 読書好きな子はどんどん自分で読んでいくので、苦手な子への対策が必要である。
 - ・ 学校で子ども同士で感想を話し合う機会を持つ。
 - ・ 大人が本とどう関わっているかを子どもに見せていく。例えば、本の感想を言っから子どもに勧めてみるのも一つの方法である。

Bグループ：「仲よく」について

【テーマ】メディアの上手な使い方を身につけさせるために

< B 1 班 >

○ 発想の転換

- ・ 学校から宿題をたくさん出してもらう。そうすれば、メディアやテレビなどを見る時間がない。
- ・ 学校で、タブレットを使つての電子読書の推進週間を取り入れてみるのもよい。
- ・ 保護者対象のスマホの使い方研修会を行う。また、スマホを使って子どもの教育方法を学ぶことはできないだろうか。
- ・ 「見るな。」「やるな。」ではなく、「使うと良いこともあるよ。」という逆の発想もいいのではないか。

○ 体験活動の奨励

- ・ 行政区の集まりが減り、つながりが弱くなってきており、昔の地域行事が減っている。大人が子どもに対して外での遊びを提案することも必要である。体験活動ができるように、メディアに頼らない時間の使い方を教えてあげるようにしたい。

○ 読書とメディア

- ・ Aグループでも話があったが、読書とメディアは関係性が深い。家族と会話を楽しんだり、家族で読書をする日を設定したりすることが大切である。大人も子どもと一緒に読書を楽しむ時間を持つようにしたい。
- アウトメディアデーの取り組みで、最優秀賞や優秀賞等をつくって表彰するようにすれば、それが励みになって、よいきっかけ作りにつながるのではないか。
- メディアから離れての「親子でクロスワードパズルコンテスト」等を開催する。景品を出す等賞賛の機会を意図的に作ることが解決策の一つになるのではないか。
- 「メディアを使うより、家族や友人、地域の方と関わるのが楽しい時間をつくることだ」という考えを村全体に広げていく。



< B 2 班 >

○ ルールの決め方

- ・ アウトメディアデーでルールを決めても、なかなか守れないという実態がある。
 - 親子で子どもに合ったルールをつくる。
 - どのくらい使っているのかという実態を把握し、その子に合ったルールの決め方ができるとよい。
- ・ アウトメディアデーについて地域住民がよく分かっていないので、村内の防災無線を利用して、地域全体に周知できるとより効果的ではないか。
- 情報提供について
 - ・ メディアに頼らずにできるふれあい活動、体験活動の情報を提供することが必要である。
 - ・ どうしてメディアにふれる時間を減らした方がいいのかについて、保護者に直接伝える機会があるとよい。（専門家との連携を図る。）
- 正しい使い方について
 - ・ 体験活動の際に、情報を集める手段としてメディア等を使うことはよい。
 - ・ パソコンが得意な子どももいるのでプログラミング学習を推進していくようにする。

Cグループ：「健やか」について

【テーマ】よりよい生活習慣や食習慣を身に付けさせるために

< C 1 班 >

○ 学校の取り組み

- ・ 業間体育の工夫…業間マラソンや体育館での運動、体育委員会の活動の工夫、体育授業の工夫
- ・ 保健授業の充実…病気予防、肥満予防、メディア依存症による成人病防止
- ・ ミニスポーツ大会の実施…子どもたちが興味を持って取り組み、体力が向上する。
- ・ 教師からの声かけ…外遊びの奨励（天気の良い日）

○ 地域の取り組み

- ・ 屋内運動場、屋内プールの有効活用
- ・ スポ少への参加（現在…剣道、バレーボール、野球、サッカー、ミニバス）

子どもたちに入部やスポーツ体験を勧めてみてはどうか。

○ 課題

- ・ 大山地区は、屋内運動場や屋内プール等の施設が遠いので送迎が難しい。学区外であるので、保護者の協力が必要である。村の送迎バス等があればいいと思う。

○ 食生活の改善について

- ・ 幼稚園児のお弁当の中身や量に偏りがある。
 - 家庭での取り組み（野菜を食べてから、別のものを食べる習慣づけ）
 - お弁当を食べる参観日を設定する。

他の子がどんなお弁当を食べているのかを知ったり、自分の子どもの実態（好き嫌い）等を見たりする日があってもよいのではないかな。

→ 簡単なお弁当メニューの発信（保健師、栄養士に開発してもらう）

- ・ 大玉版朝食レシピ集の発行、大玉版お弁当コンテストの実施
- ・ 子育てセミナー（公民館主催）の実施

○ 生活習慣の改善

- ・ 地域ぐるみで「早寝、早起き、朝ごはん」運動に取り組む。
- ・ 村内の防災無線でアウトメディアへの取り組みを呼びかける。
- ・ 大山小では、PTA教養委員会が中心になって「親子でチャレンジ」（親子でもっと外で遊んだり、ふれあったりするよう奨励）を推進している。
- ・ 家庭にお願いすることが多いのだが、生活習慣や食生活はやはり家庭が大事であるという意見が多かった。



< C 2 班 >

○ 幼稚園で給食を実施してみてもどうか。

- ・ 大玉村のお母さん方の負担が大きくなってきている。

朝 7 時から働き詰めで、子どもを迎えに来るのが夜の 7 時頃の方もいる。お母さん方は、お弁当どころか朝食を作っている時間もなく、毎日幼稚園に駆け込んできている方もいるのが現状である。

子どもたちのお弁当の中身が気になる。ご家庭には、その都度お話ししてきたが、これ以上バランス良くとか、食べやすくとかは言いづらい状況である。

教職員は保護者に寄り添うことしかできない。

8 講 評

（ C S 委員会会長 伊藤 和弥 ）

長時間にわたっての協議お疲れ様でした。大山幼稚園、大山小学校の課題や希望が見え、なかなか大変なんだというのが素直な感想である。しかしながら、(今日の C S 委員会のように) 先生・地域・保護者が、このような課題に対して率直に話し合う機会があるというのがいいのではないかなと思う。これらの課題全てをすぐに解決するのは難しいが、様々な工夫を加え、そして考えながら、今後の活動につなげていければいいと考える。今日は長時間に渡りありがとうございました。講評

と言うより感想を述べさせていただきました。

9 御礼のことば

(大山小学校長 舘脇 一弘)

本園、本校の課題について、たくさん良いアイデアをいただきました。後ほど落ち着いてから改めて考えさせていただきたいと思います。

課題についてもそうだが、私がこれまで気になっていることがある。立哨指導で朝7時15分頃から学校前に立っているのだが、お母さん方の中には、子どもを預けると、車のスピードを結構出して通り過ぎていく方が多い。お父さん達は、にこやかに会釈を返してくれるのだが…。

「あのお母さんはどこまで勤めに行っているのだろう。」

「よほど急がないと間に合わないのではないか。」

「一度家に帰って、さらに何かをしてから出かけるのかな。」

等と毎日とても気になっている。

そんな実態も調査できたら今後に役立つのではないかと考えている。本日は本当にありがとうございました。お世話になりました。



10 閉会のことば

(CS委員会副会長 大山 明美)

皆さん、今日一日お疲れ様でした。これで大山幼稚園、大山小学校運営協議会を終わります。ありがとうございました。